

機関番号： 12601
 研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 平成19年度～平成21年度
 課題番号： 19520200
 研究課題名（和文） 「手紙」の文化に見る近代ロシア文学の成立過程—現実と虚構の間で—
 研究課題名（英文） Epistolary culture and the development of Russian modern literature

研究代表者
 金沢 美知子（KANAZAWA MICHIKO）
 東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
 研究者番号： 60143343

研究成果の概要（和文）：

18～19世紀初頭のロシア社会においては「手紙の文化」が著しく発達し、手紙の書き方についての書物、書簡形式の学術的文章、知識人の私文書としての手紙が数多く公刊された。また、ロシアの初期の書簡体小説の分析を通して、書簡の形式によって日常的現実を様式化しようとする作家の方法意識が明らかになった。「手紙」は「現実」（即ち生活）の風景から「虚構」（即ち文学）の様式へと発展し、この変化のプロセスが近代ロシア文学の成立に大きな役割を果たしたのである。

研究成果の概要（英文）：

During the term of the project the following researches were done to elucidate the relationship between the development of Russian modern literature and epistolary culture in the 18th century Russia.
 (1) First I researched the epistolary culture in modern Russia.
 The epistolary culture remarkably developed in the 18th century : a great many academic articles in epistolary style and private letters were published.
 (2) Secondly I analyzed Russian early epistolary novels and its authors.
 The main subject of analysis was Fyodor Emin, whose work *Letters of Ernest and Doravra* is the first epistolary novel in Russia.
 Through the researches mentioned above, we clarified that “ method of epistolarity ” had played a very important role in the developing process of Russian modern prose fiction.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野： ロシア・東欧文学、文化

科研費の分科・細目： 文学・ヨーロッパ文学

キーワード： ロシア、ヨーロッパ、18世紀、書簡体小説、手紙、フョードル・エミン、ニコライ・カラムジン、ドストエフスキー

1. 研究開始当初の背景

近代ロシア文学が成立した事情については必ずしも見解の一致が見られているわけではなく、現在なおロシア国内外の研究者によって熱い議論が交わされている。ペテルブルグのロシア文学研究所から出版されているシリーズ『18世紀』収録の研究論文においても、頻繁にこの問題が取り上げられている。

そうした議論の背景、即ち近代ロシア文学成立事情の不可解は主として二つの点と深く結びついているように思われる。第一は、近代ロシア文学を中世以来のロシアの伝統の系譜上に自然発生的に誕生したものと捉えるのか、それとも西欧文学の大幅な移入によるドラスティックな改革の結果と見なすのかという問題が十分に解明されていない点である。ここには記述文学の歴史が浅いこと、一時期「タタールの軛」のもとで西欧との文化交流が阻まれていたこと等、ロシア固有の事情もあるだろう。第二は、ロシア社会に「文学」の概念が定着したプロセスが未だに曖昧な点である。日本 18 世紀ロシア研究会では屢々「ロシア近代文章語」の定義が議論され、参加者の大きな関心を惹いてきた。ロシアは長く豊かなフォークロアの伝統を有しているが、ロシア固有の「文章化された文化」、「記述された文学」の実現をめぐるには多くの挫折と困難を体験してきた。「近代ロシア文学」の成立のプロセスは、「文学」の概念をロシア社会が共有し確立するプロセスだったとも言えるだろう。

本研究課題の申請者は従来より近代ロシア文学成立のプロセスに強い関心を持っており、平成 12～14 年度科研補助金「18 世紀ロシアの文化的コンテクストに見る小説文学の成立と発展」を受けての研究では、日本における 18 世紀ロシア研究の推進に微力ながら貢献することができた。しかしこの研究はプーシキン登場直前の 18 世紀末、センチメンタリズムに焦点を置いていたため、解決しきれなかった問題も多く、とりわけ上記の二点に関しては十分な解明を行うことができなかった。これらの問題を解決する方法について検討している過程で、フォードル・

エミン（1735?～70）という極めて有効な手掛かりに出会い、18 世紀半ばの文学と文化の事情について調査を進めることになった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、18 世紀ロシア社会において「手紙」が「現実」（即ち生活）から「虚構」（即ち文学）の方法へと移行、発展するプロセスを考察し、それを通して、近代ロシア文学成立の経緯を明らかにすることである。そのための作業として、(1) 18～19 世紀初頭のロシア社会における「手紙の文化」に注目し、「手紙の書き方」についての書物、書簡形式をとった学術的著作、当時の知識人たちが残している私文書としての手紙の分析を行い、「書くこと」に対する当時の社会の理解を明らかにする。また、(2) ロシアの初期の書簡体小説を考察し、書簡という形式に作者のどのような方法意識が現れているのかを明らかにする。

特にフォードル・エミンに見られる書簡形式への傾斜に注目し、彼以後、ロシアの物語文学の手法が大きく変化した可能性について考察する。フォードル・エミンは日本では殆ど知られていないが、ロシアの 18 世紀研究者の間ではロシア最初の書簡体小説の作者として評価されている。申請者はエミンについての調査と考察の一部を既に論文としてまとめた段階で、エミンの作家活動、特に代表作である書簡体小説『エルネストとドラーヴラの手紙』は近代ロシア文学黎明期の重要な出来事であり、「ロシア近代文学成立に果たしたロシアと西欧の役割」、「ロシアにおける文学概念の成立」を考える上での大きな手掛かりを提供している、との思いを強くした。

エミンの生地はコンスタンティノーブルといわれており、アジア、ヨーロッパ各地を遍歴した後、ペテルブルグに到着したのは後半生になってからのことだった。代表作『エルネストとドラーヴラの手紙』はルソー『新エロイズ』の強い影響下に書かれたもので、この意味でも、彼の作品はロシア以外の地域

の諸文化の混淆物であったことがわかる。

また彼が書簡体に拘った一因としてはルソーの『新エロイズ』の影響が考えられるにしても、書簡自体は学問的な表現の形式として既にエミン以前のロシアでも用いられており、18世紀のロシア上流社会では「手紙」が生活の一風景として定着し始めていたという事情もある。「異邦人」であるエミンがこうした社会的コンテキストの中で、書簡体小説によって近代ロシア文学の礎を築いた意味は極めて大きいといわざるを得ない。

申請した研究課題は、エミンの創作活動を18～19世紀初頭の書簡テキスト全体の中に位置づけ、この作業を手掛かりとして、「手紙」が生活と虚構の狭間で揺れ動きながら文学の方法へと成長してゆく様子を考察するものである。即ち「手紙文化」の中に近代ロシア文学成立のプロセスを探る試みと言えるだろう。

3. 研究の方法

研究に際しては主に次のような作業を行った。

(1) 18～19世紀初頭のロシア社会における「手紙の文化」に注目し、特に社会（ロシアは極めて識字率が低かったので、実際は社会＝上流社会である）に定着し始めていた「手紙の文化」について考察する。18世紀初頭に出版された「手紙の書き方」についての書物、書簡形式をとった学術的著作、当時の知識人たちが残している私文書としての手紙の分析を通して、ロシア社会に手紙が普及し、浸透していった経緯が明らかになり、「書くこと」に対する当時の社会の理解が明らかになると考えられる。

(2) 「手紙」が物語の方法として実現したロシアの最初の例であるフォードル・エミンの書簡体小説に関して、作品誕生の背景を調査し、同時にテキストの分析を行い、書簡という形式に作者のどのような目的意識が現れているのかを明らかにする。エミンの書簡体小説誕生背景ともなっていたロシアにおける書簡形式の文章やS.リチャードソン、ルソー等、外国の書簡形式の作品との比較考察も併せて行う。

(3) 以上の作業を踏まえ、18世紀ロシア社会において「手紙」が「現実」（即ち生活）か

ら「虚構」（即ち文学）の方法へと移行、発展するプロセスを考察する。このことにより、ロシア社会における「文学」の概念の成立の事情が明らかになり、また近代ロシア文学成立の経緯についての理解も得られるであろう。

4. 研究成果

研究年度を通じて18～19世紀初頭の書簡形式の文学テキストを分析し、併せて当時の文化背景に関する情報を得るために、ロシア社会における「手紙」文化について調査した。得られた成果はその都度学会、研究会で口頭発表し、また論文発表した。一部は今後発表する予定である。具体的には次のような作業を行った。

(1) フォードル・エミン（1735?～70）の書簡体小説『エルネストとドラーヴラの手紙』（1766）及びこの作品が誕生した経緯について考察した。エミンが大きな影響を受けたと考えられるルソー『新エロイズ』との類似性、『新エロイズ』との関係を考察した。またエミンの独自性についての分析を行い、この作業を通してエミンがこの作品において実現しようとした「書簡体小説」の像を理解した。

(2) 『エルネストとドラーヴラの手紙』発表当時のロシアの読者層の知的関心について調査した。一般読者からは熱い歓迎、アカデミー会員の間では賛否両論という異なった反応が見られ、当時のロシアに文学テキストについての多様な嗜好と認識が存在していた事情が明らかになった。

(3) エミンの『エルネストとドラーヴラの手紙』から、カラムジン、プーシキンの文学を経てドストエフスキーの初期作品にいたる「手紙の方法」を概観し、この方法がロシア近代文学の成立に果たした役割について考察した。

(4) 2007年7月にフランスで開催された国際18世紀学会に出席して18世紀ロシアに関する発表を行い、関係諸分野の専門家と情報および意見交換を行った。

(5) 2008年9月、第6回日本18世紀ロシア研究会において、フォードル・エミンの文学活動とロシアの手紙文化について研究発表

を行い、18世紀ロシアの専門家と情報および意見の交換を行った。

(6) 「日本18世紀ロシア研究会年報」第6号にフォードル・エミンの文学活動と『エルネストとドラーヴラの手紙』(1766)誕生の経緯、およびロシアにおける書簡テキストの歴史に関する論文を発表した。これは前年度、第6回日本18世紀ロシア研究会に於いて行った口頭発表を発展させたものである。

(7) 2011年12月に台湾で行われる国際学会では、招待講演者として本研究の成果の一部を紹介する予定である。

(8) 日本18世紀ロシア研究会の運営に携わり、2010年に開催された第8回日本18世紀ロシア研究会を開催した。また研究会年報を発行した。

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

(3) 連携研究者 ()

研究者番号:

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① 金沢美知子、フォードル・エミンと18世紀ロシア—「現実」の様式化へ向けて—、日本18世紀ロシア研究会年報、査読無、6号、2010、pp. 1-14

[学会発表] (計3件)

① 金沢美知子、18th-century Russia in Japanese scholarship、XIIe Congrès international des Lumières、

2007年7月10日、フランス、モンペリエ

② 金沢美知子、フォードル・エミンとその作品、日本18世紀ロシア研究会、

2008年9月21日、一橋大学

③ 金沢美知子、ロシア・センチメンタリズムと「放蕩娘の物語」(原題ロシア語)、

国際ロシア言語文学会、2011年12月2日、台北

[その他]

① 日本18世紀ロシア研究会運営、第5回、第6回、第7回、第8回研究会の開催

② 日本18世紀ロシア研究会年報No. 4, 5, 6, 7の発行

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金沢 美知子 (KANAZAWA MICHIKO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号: 60143343